

日本再共済連

国内で唯一、再共済事業専門団体

日本再共済連は、国内で唯一、再共済事業を専門に行っており、いわゆる「共済の共済」を提供している。ここ数年間は大きな自然災害が少ないこともあり、契約・収入ともに安定している。2007、08、09年度の契約実数は2602万4000件、2593万1000件、2565万7000件。同じく、受入再共済掛金は151億6000万円、150億3000万円、153億9000万円。支払再共済金は57億6000万円、50億円、49億5000万円。契約件数は、自然災害共済再共済や生命共済再共済が増加した反面、そのほかの再共済契約が減少した結果、わずかに減少。契約口数は、会員団体の自然災害共済の加入が好調なことから微増している。また同連合会は、社会貢献活動や研究活動などに注力している点も特徴だ。角田修作理事長に取り組み状況などについて聞いた。



角田修作 理事長に聞く

——日本再共済連の概 要は。
 角田 会員である職域や地域の生活協同組合、事業協同組合に対して、「火災」「自然災害」

「生命」などの再共済を提供している。現在の会員数は59会員。内訳は、地域生協47、職域生協8、生協連合会2、市民生協1、事業協同組合が1となっている。

——歴史は。

角田 現在の再共済事業専門団体に至るまでに組織改編を4回行った。今から約35年前、5つの単産共済が自動車共済事業

を実施するために、「全国単産労働者共済生活協同組合連合会」(単産共済連合会)としてスタート(設立認可日は1975年1月13日)。その後、80年に「全国労働者自動車共済生活協同組合連合会」(自動車共済連)となり、87年に自動車共済の契約引き受けを中止し、各労働者共済に契約を移行した。ここで再共済事業を開始するとともに「全国労働者共済生活協同組合再共済連合会」(全労済再共済

社会貢献や研究活動などにも注力

連)へと組織を変更して「再共済事業団体」となった。2004年には自動車共済事業(損害調査業務、情報処理など)を全労済に統合して「再共済専門団体」となり、06年に「日本再共済生活協同組合連合会」(日本再共済連)に名称変更。生協の共済だけでなく、共済協同組合が行う共済全体の再共済専門団体として生まれ変わった。

——再共済事業の内容は。
 角田 現在実施している再共済は①総合(慶弔)共済再共済②火災共済再共済③自然災害共済再共済④交通災害共済再共済⑤生命共済再共済⑥自動車共済再共済⑦自賠責共済再共済⑧の7種類。

——研究活動の内容は。
 角田 近年、共済事業を取り巻く環境は劇的な変化を遂げていることから、直近の周辺課題をテーマに「共済課題研究会」を開催している。昨年11月には「日本における自然災害のリスクとマネジメント」をテーマに実施し、22の共済団体が参加した。この研究会は、1990年に「再共済・再保険ならびに自動車共済について、国内外の制度・理論を研究する場」として「再共済研究会」の名称で始まり、その後毎年開催してきた。再共済事業開始20周年を記念して、2007年に「共済課題研究会」と名

た「自然環境の再生活動」。2007年5月から「富士山の森づくり」を実施しており、資金援助と、会員の役員と共助と、山梨県鳴沢村で年一回(5月)の植樹を実施している。これまで4年間で約3000本を植樹した。また09年からはフィリピン・ルソン島のヌエバピスカヤの森林再生支援も行っており、10年7月には会員団体と日本再共済連でボランティアを派遣し1000本を植樹した。

——活動の特徴は。
 角田 特に「富士山の開催している。さらに、海外再保険に関する研修会やセミナー、会員団体の研修会への講師派遣や、講演などを行っている。また、最近では、会員団体に限らず共済団体にとってリスク管理の課題は大きくなってきていることから、会員団体に対して自然災害リスクの分析も支援している。

——活動の特徴は。
 角田 特にならぬ。

——活動の特徴は。
 角田 特にならぬ。

——活動の特徴は。
 角田 特にならぬ。

——活動の特徴は。
 角田 特にならぬ。

——研究活動の内容は。
 角田 近年、共済事業を取り巻く環境は劇的な変化を遂げていることか

【角田修作(つのだ・しゅうさく)氏の略歴】
 1949年6月27日生まれ。2005年6月日本鉄道労働組合連合会(JR連合)会長に就任、09年6月全国交通共済生協理事長に就任(現職)、09年8月日本再共済連理事長に就任(現職)。